

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2014. 12  
No.256

### “イナテック企業理念”講話

“イナテック企業理念”はイナテック創立

50周年の時に発表した理念であります。

私は直接社員の方々に伝えたいという想いがあります。その為、入社して頂く方にも直接ご説明し、また、学生さんへの企業説明会でも私自身の肉声でお伝えしております。

企業理念の中でも申し上げていますように、フェイス to フェイス、ハート to ハートがやはり基本だと思っていますし、皆さんに模範を示さないといけないという私のこだわりでもあります。

さて、今までに私が何回イナテック企業理念をお話しているのか(残念ながら)数えてはいないのですが、だいたい毎月4回として一年で48回

講話を行っています。そして今年が創立62周年ですので、今までに576回ほど、この企業理念を様々な方々にお話していることになりました。

私としては、これだけお話をしているので、少しは社員の皆さんに伝わっているだろうと思いう気持ちがある中、どこかには、社内での企業理念が浸透できていない場合を目の当たりにした時など、「なぜ」と思うことがあります。

そういつたなかで、月刊致知11月号『稲盛和夫に学んだこと』というテーマの森田直行会長の記事に出会いました。

『責任者というのは壊れたレコードのように同じことを何度も繰り返して下の者に伝えなければいけないのです。』

「何度同じことを言わせるんだ」

という声はどこの会社からでも聞こえてきそうですが、そんなことを言っているようでは人の上に立つ人間としては失格で、むしろまた同じことを言っているなと思われるくらい言い続けなければならぬ。そうすれば言われまいと避けて行動することで賢くなっていくというのが稲盛会長の考え方でした。』

この記事に出会って、「今まで576回程度、企業理念を講話したくらいで自分は何を言っているんだ」と私自身気持ちを入替えました。

壊れたレコードのように、「一生」皆さんに語り続ける覚悟です。宜しく願い致します。

イナテック企業理念を理解し、行動にあらわせる社員の方が一人でも増えれば、この上ない私の幸せであります。

### “社員の皆様へのメッセージ”

最近、遠方より御来客があり、そのご挨拶の中で私が毎月書いている“社員の皆様へのメッセージ”の話が出てきました。

例えば、1993年の9月に第一回目のメッセージ

を発信して以来、21年間毎月書いております。今月で256回目になります。なぜこのようなメッセージを書こうとしたのか、私のその想いをお話いたします。

21年前、毎週月曜日に社員の方々に食堂に集まって頂き、朝礼をしておりました。その中で、私が皆さんの前で15分間くらいスピーチしてお

りました。そのときは既に勤務体制が3直体制でしたので、月曜日の朝礼にみえる方々は全社員の半分くらいでした。他の半分位の社員の方々にわたしのスピーチを聞いてもらうことができなかつたのです。

私が考えていることを社員の皆さんに伝えていくつもりでも全員に伝えることが出来ないということや、スピーチというものは「声」を媒体とするので、その時は覚えていても、後には何も残らないということなど、このままスピーチを続けていつてもいいのだろうかという疑問がふつと湧いてきました。

それではいつその事こう思いました。毎週の全体朝礼をやめて、「メッセージ」を書こう、そして月に一度は私自身の頭の中を整理して、私の想いを皆さんに読んでいただく、また、それを給与袋の中に入れてご家族の方々にもイナテックの社長が今何を考え会社をどのような方向へもつていきどんなイナテックを目指しているのか、という一端を読んでいただくこと。

また、『続ける』ということが一番考えたので、最初の頃は出張旅行の日記帳のようなものを書いておりました。

又、文末には『菜根譚』文集を載せました。

私の文章の補足とし、少しでも皆さんに人間深さを味わっていただきたいとの想いからでした。

その『菜根譚』も前集と後集を合わせると357詩になります。

途中から載せましたが、357詩すべてが終わる

のが2022年、私が70歳の時になります。まずは

70歳まで頑張ろうと思っております。

## 一九

延促由於一念、寛窄係之寸心。故機閑者、一日遙於千古、意廣者、斗室寛若兩間。

延促は一念に由り、寛窄はこれを寸心に係く。故に機閑なる者は、一日も千古より遙に、意広き者は、斗室も寛くして兩間の若し。

一 延促——伸び縮み。時間の長短。二 寛窄——空間の広い狭い。三 寸心——方寸の心。心の意。四 機閑なる——心のはたきが、ゆったりとしている。「閑」は閑に同じ。五 斗室——一斗ますほどの広さの室。ごく狭い部屋。六 兩間——天地の間。

時間の長短は、その人の一念に基づくもので(時間そのものの長短は一定であるが)、空間の広狭も、その人の心一つに係っている(空間そのものの広狭は一定である)。そこで、心のゆったりした者は、一日でも千年よりも長いと思ひ、心の広い者は、ごく狭い部屋でも天地の間のように広いと思ふ。

